



国際ロータリー 第266地区

合同地区委員長会議報告書

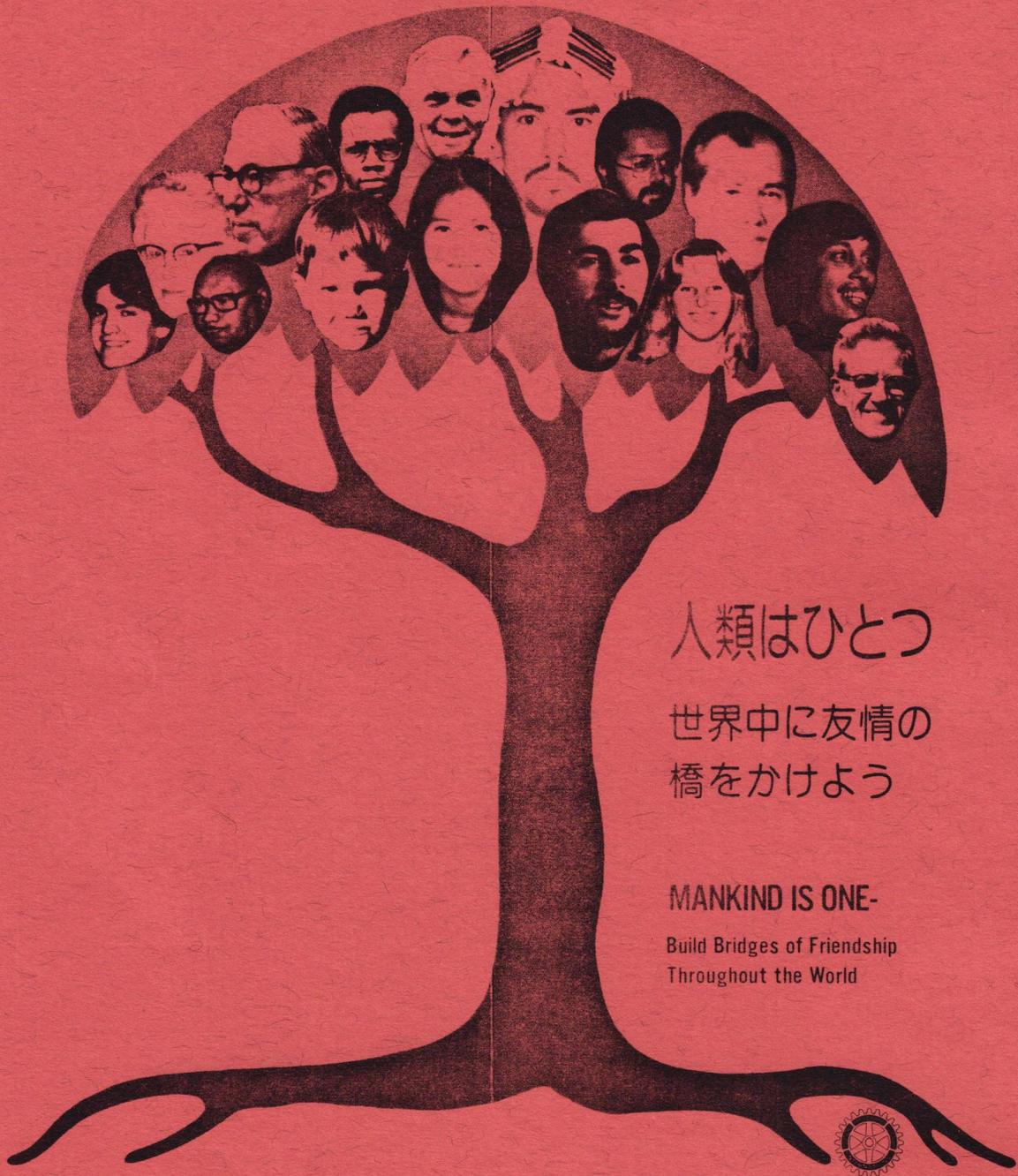
1982 ~ 83年度

1983 ~ 84年度



ガバナー 戸田 孝

昭和58年4月23日^土 於 新阪急ホテル



人類はひとつ

世界中に友情の
橋をかけよう

MANKIND IS ONE-

Build Bridges of Friendship
Throughout the World



現・次期地区委員長合同会議

日 時 1983年4月23日
 受付 9:30～10:00
 会議 10:00～15:00
 場 所 新阪急ホテル 花の間

プ ロ グ ラ ム

| | | |
|-------------|-------------------|------------|
| 10:00 | 開会点鐘 | 戸田ガバナー |
| 10:00～10:05 | ガバナー挨拶 | 戸田ガバナー |
| 10:05～10:15 | 来賓及び現委員長紹介 | 戸田ガバナー |
| 10:15～10:20 | ガバナーノミネー挨拶 | 世戸ガバナーノミネー |
| 10:20～10:30 | 次年度委員長紹介 | 世戸ガバナーノミネー |
| 10:30～10:35 | 地区ガバナー指名委員会 | (5分) |
| 10:35～10:40 | 意義ある業績賞委員会 | (5分) |
| 10:40～11:15 | クラブ奉仕部門 | (35分) |
| 11:15～11:30 | 職業奉仕部門 | (15分) |
| 11:30～11:50 | 社会奉仕部門 | (20分) |
| 11:50～12:25 | 昼 食 | (35分) |
| 12:25～12:55 | 青少年奉仕部門 | (30分) |
| 12:55～13:40 | 国際奉仕部門 | (45分) |
| 13:40～13:50 | 休 憩 | (10分) |
| 13:50～14:25 | ロータリー財団部門 | (35分) |
| 14:25～14:40 | 拡大部門 | (15分) |
| 14:40～14:48 | 地区資金委員会 | (7分) |
| 14:48～14:55 | 地区大会 | (8分) |
| 14:55～15:00 | ガバナー謝辞 | 戸田ガバナー |
| | ロータリーソング「手に手つないで」 | |
| 15:00 | 点鐘閉会 | |



向 笠 広 次
日本、大分県、中津RC

親愛なる同僚ロータリアン諸君：

人類はひとつの大きな家族—すべての人間、すべての国民を含むひとつの大きな家族です。全家族の平和と幸福がなければ、個人の平和と幸福はあり得ません。

世界の平和と幸福は全人類の共通の願いである筈です。しかし、不信と猜疑が障害となって、人々が他の人々と分かち合い助け合うことを妨げています。人々が人類はひとつであることを認識する時、親睦、友情、寛容の心が生まれ、この障害に打ち勝つ力となるでしょう。

従って、ロータリーを通じて世界中に友情の橋をかけようではありませんか。そうすることによって不信と猜疑は取り除かれ、障害は克服され、そして世界の平和と人々の幸福が実現するでしょう。

敬 具

向 笠 広 次

国際ロータリー会長

人類はひとつ 友情の橋をかけよう

- あなたのクラブにおいて—真の友情と友好的な行動の基礎として知り合いと親睦を深めることによって；クラブの会合に出席することによって；新会員を導入することによって；クラブの計画と活動に加わることによって；あなたのクラブの同僚達と意見や関心を分かち合うことによって。
- あなたの職場において—ロータリーの職業奉仕の理想を言行に示すことによって；あらゆる有用な職業に対する尊敬の念を植えつけることによって；若人達に職業に関する情報を与え職業決定の指導をすることによって。
- あなたの地域社会において—地域社会の人々と思いやりの精神を分かち合うことによって；他人というのはまだ会ったことのない友人であることを認識することによって；地域社会の中にあるへだたりを取り除くことによって；老人、障害者、不幸な人々を助けるよう献身することによって；インターアクト、ローターアクト及びRYLAを通じ青少年と共に奉仕することによって。

世界中に

- 国際理解、善意と平和が真に起こり得るものであることを示すことによって；他人が友人となるのを助け、対立する者が仲間同志になるのをうながす諸計画、即ちロータリー財団、3-H計画、世界社会奉仕、組み合わせ地区及びクラブ・プログラム、青少年交換、姉妹クラブ或は姉妹都市、国際共同委員会及びその他の計画を推進し向上させることによって。

地区ガバナー指名委員会

| | | |
|-----|-------|--------|
| 委員長 | 種田憲次 | (大阪住吉) |
| 委員 | 原田秀雄 | (大阪北) |
| ” | 大谷一雄 | (大阪西) |
| ” | 田宮 佐 | (高 槻) |
| ” | 峯村英薫 | (大阪東) |
| ” | 平井常次郎 | (大阪南) |
| ” | 菅生謙三 | (大阪北) |
| ” | 伊藤恭一 | (大 阪) |
| ” | 伊瀬芳吉 | (池 田) |

7月27日に最初の委員会を開き、各委員に資料を配布し選考の基本方針について討議した。

1) クラブ創立20年以上の会長経験者より選ぶ。

2) 大阪府北部のRCより選びたいが、不可の場合は大阪市内次に大阪府東部の順とする。立派な候補者が多数おられるが、いざ接渉となるとお仕事の都合でどうしてもガバナーとしての時間が割け得ない方が多く、又健康状態から2年後のガバナー就任時期に自信がないということで、候補者選出に大変難航した。委員会も9月2日(地区諮問委員会の時)10月30日(I.G.F.第1組)11月12日(地区諮問委員会の時)と開催したが決定をみず、大阪北部、大阪市内よりの選出を断念し、11月14日の委員会にて東大阪RCのシニア・アクティブ会員(歯科医)大阪歯科大学名誉教授 中村俊一君を1984～85年度ガバナーノミニー候補者として推薦することに決定した。

ガバナー月信7号(12月)にて発表し、12月25日の期日を決めて他に候補者を推薦するクラブの提案を待ったが、指定の期日までにどのクラブからも候補者の提案がなかったので、戸田ガバナーはガバナー月信8号(1月)にて中村俊一君(東大阪)を1984～85年度のRI第266地区のガバナーノミニーとして宣言された。更に4月16日大阪厚生年金会館に於いて開催された地区大会に於いて中村俊一君はガバナーノミニーとして選出された。

予算 120,000円 支出累計 4,635円 残高 115,365円

意義ある業績賞委員会

委員長 種田憲次 (大阪住吉)

委員 伊藤恭一 (大阪)

〃 伊瀬芳吉 (池田)

ガバナー月信3号にて「意義ある業績賞」の選定の基準(5項目)を発表し、各クラブに対し表彰申請とその資料を10月30日までに応募するように訴えた。

期限までに大阪東、大阪平野、大阪城東、大阪大淀、大阪心斎橋、高槻東、豊中南、八尾及び池田の9RCより申請書が提出された。

昭和57年11月30日戸田ガバナー出席の下に委員会を開催し慎重審議の結果、豊中南RCの「青少年問題を考える座談会」は1 昨年の「中学生座談会」昨年の「学校指導主事・PTA・ロータリアンによる座談会」に続き、保護司、補導担当教師、PTAの代表による座談会で学校、家庭、地域社会が青少年の非行の実態を知りどのように取り組むかという現在最も関心の多い問題を取り上げているばかりでなく、豊中南RCが青少年問題について毎年継続的に真正面から取り組み地域社会への奉仕を行なっておられるので、これを1982～83年度の「意義ある業績賞」候補として推薦することに決定した。

大阪平野RCの「養護学校生徒の阪神パークへのバスツアー」、高槻東RCの「職域対抗親善ソフトボール大会」、八尾RCの「フィリピンへのWCS」、大阪大淀RCの「緑の公園」大阪城東RCの「台湾中学生への奨学資金」、大阪東RCの「弱視用の特製漢和辞典の製作」及び大阪心斎橋RCの「フィリピン大学生への奨学基金」の7件はいずれも優秀であって甲乙をつけ難い程であったので、ガバナーより別途適当なる機会に表彰されることを希望した。これら7件は地区大会にて準意義ある業績賞として表彰された。

池田RCより申請された西村一夫会員よりの20年に亘る例会への生花寄贈は、この賞の選定基準には合致しないが、毎月の初例会に飾られた生花が社会奉仕委員長の手で池田病院入院患者の慰問品として贈呈されていることは、おもいやりの暖かい心としてガバナーより別途披露表彰されることを希望した。これは4月の地区大会にて特別奉仕賞としてガバナーより表彰された。

予算 30,000 支出累計 0 残高 30,000

クラブ奉仕部門

(追記)

1983年規定審議会決定事項のうち、クラブ奉仕部門関係は次の通り

制(83-30)人頭分担金の増額と半期中途入会者の分担金創設

R I 細則第15条第3節(a)及び第4節(a)の改正、追加

年間の人頭分担金U.S. \$17.00をU.S. \$20.00に値上げ(原案U.S. \$22.00)し、7月1日及び1月1日の会員数に応じてクラブが各半期毎に支払うこととなる。又半期の中途で入会する新会員1人につき四半期分の分担金としてU.S. \$5.00(原案U.S. \$5.50)を10月1日または4月1日付で支払う制度を創設した。

制(83-31)新クラブ加盟金金額の決定

R I 細則第1条第1節(a)項の改訂

新クラブの加盟金U.S. \$150.00またはその相当額を削除し、加盟金はR I 理事会によって決定された金額とするよう改正

制(83-34)規定審議会代議員の旅費の補助として追加分担金を徴収する

R I 細則第15条第3節に項目追加

規定審議会の開催が予定される年度に各クラブは会員1人当たりU.S. \$1.00を7月1日付で、審議会のクラブ代表の旅費の助成金にあてる為、追加分担金として支払う。

制(83-79)国際大会のクラブ代表権の基礎となる会員数算定の日の改訂

R I 定款第8条第3節(a)項

上記算定の日を国際大会開催の日よりさかのぼって3ヶ月目の最終例会日の会員数とするを改め、大会直前の12月31日現在の会員数によることとする。

制(83-124)クラブの区域外にある者の入会条件を緩和

R I 定款第4条第3節に追加

本人がクラブの区域外にあるが同一市内または隣接クラブの区域内に事業場又は住居をもっている人を新会員として入会せしめることができる。

制(83-134)アディショナル会員の身分規定を修正

R I 細則第3条第3節(a)項及び標準クラブ定款第8条第2節(b)を修正

推薦の正会員が身分を集結した時、又はシニア・アクティブとなった時、アディショナル会員は自動的にその身分を集結するとあるを改め、正会員がその身分を失ってもアディショナル会員の身分には何等の影響がないものとする。

制(83-138)バスト・サービス会員となる為の正会員在籍年数を5年から3年に短縮

R I 細則第3条第5節(a)項

制(83-152)出席クレジット又はメイクアップの為には例会時間の少なくとも60%出席していないときは欠席とみなされる

標準クラブ定款第8条第5節(a)項に追加

所属クラブ或は他のクラブに出席した例会で、その例会時間の少なくとも60%出席していなければ欠席とみなされる。

会員増強委員会

委員長 日和佐良太郎 (八尾東)
委員 岡部次郎 (箕面)
" 萬 満 (大阪心斎橋)

(1) 会員増強

本年度の会員増強については、7月上旬向笠RI会長より全地区ガバナーへのメッセージが送られ、「ガバナーの重要な任務の一つは、各クラブを強化することであり、その強化するに当たって欠くことのできない一つの要素は会員の増強である」と強く要請されたのであります。本地区戸田ガバナーもこの要請に応じて、本年度純増加数202名(5.7%)の目標をたてて増強対策に入ったのであります。

1. 例年にない初の全地区の合同会員増強委員会が1982.7.10帝国ホテルにて開かれ、増強セミナーで各委員が意見を提出して討論した結果、有効な資料を得ることが出来ました。
2. その資料を参考にして会員増強に関するアンケートを各クラブに依頼した主なる内容は、(イ)増強についていかなる方策を講じているか(その具体例)(ロ)増強について非常に効果があった例、アンケートの結果については(イ)について20件、(ロ)について22件の報告があり、その成果は極めて良好であった。アンケート報告書を各クラブの参考資料として会長宛に配布したクラブでは、その報告書を検討して増強対策に供したと思われる。
3. ガバナー月信9号に会員増強に関する記事を掲載した。ガバナーの純増加目標5.7% 202名に対して12月末達成人数102名(3.4%)で後半82名の達成について各クラブへの一層の努力をお願いした。58.3月までの純増加数は132名であり期首会員数3542名に対して3.7%である。(前年度120名、増加率2.1%)
4. アンケート結果による最も有効であった方策と非常に効果があった具体的な例
 - イ. 例会において再々増強の必要性を説く
 - ロ. 全会員に新会員紹介に関する情報カードを毎月配布する。
 - ハ. 会長自ら指揮して増強に関するフォーラムで指導している。
 - ニ. 多くの会員が移籍で激減したため、全会員が真剣になって増強に取り組んだ
 - ホ. 新しいクラブだけに今まで理事・役員が積極的に増強活動に奔走した。
 - ヘ. 未広グループと称して5名で1グループを作り新会員獲得の運動を起こして効果を得た。

予算 120,000 支出累計 49,120 残高 70,880

広報委員会

委員長 藤平信秀 (大阪)

(中 豊) 藤平信秀 委員長

委員長 藤平信秀 (大阪)

(北 豊) 藤平信秀 委員長

委員 真崎貞夫 (大阪北)

(中 豊) 藤平信秀 委員長

〃 中谷洋一 (大阪南)

「人類はひとつの世界中に友情の橋を架けよう」-この向笠RI会長テーマの強調を地区広報委員会活動の中心にすえて活動を進めた。なかんずく、国際ロータリー第266地区などの援助で、スリランカの首都コロンボ近郊に完成した孤児院をめぐるロータリアンのハートウォーミング・ストーリーについては、戸田ガバナーのご指示もあり、強く各広報機関に働きかけ、たびたび日刊新聞の紙面を飾った。一般読者にアピールするドラマチックなニュースを素材として、各紙がこぞってとりあげたものであろう。「世界中に友情の橋を」のテーマをきわめて具体的に訴えることができた。その他第266地区・第264地区のインターアクトの海外研修を「香港・中国で友情の輪」と題して、同行取材を3回にわたって連載した地元紙もあった。

なお、恒例の在阪新聞、放送、通信各社ロータリー係とガバナー、広報委員会との懇談会は8月2日開催、各社全員の出席を得、実ある会合となった。

今後とも4月15・16日の第266地区年次大会をはじめ、日韓親善会議、ロータリーアクト年次大会などイベントが続く。一般広報機関に訴え得る報道の切り口をさらに工夫し、一般への周知と理解を求めたい。

次年度地区広報委員長の船田芳一氏は高名な広報の専門家であり、誠実、温厚の人格者である。至らざることのみ多い本年度委員長と変わって、一層積極果敢で、ユニークな広報活動の高揚が期待される。

予算 200,000 支出累計 201,371 残高 Δ1,371

001.8Δ 高野 001.88 電気出支 000.08 異干

規定情報委員会

委員長 林 董 (豊 中)
委員 村田悦蔵 (大阪北)
" 村田善明 (豊 中)

今年度から地区規定委員会が地区規定情報委員会に改称され、規定ばかりでなく情報活動にも努力するよう要請された。そこで当委員会の活動としては、まず第一に1983年3月7日から10日までの間、モンテ・カルロにおいて開催された規定審議会に対する準備であり第二には各クラブに対するロータリー情報の普及徹底に務めたつもりである。

1. 規定審議会に対する準備及び活動

- (1) 改正案の提出(RI細則6-1、標準クラブ定款14-3)は当地区から制定案83-38、青少年への奉仕を綱領の第5項とする件(豊中RC)と、83-94、クラブ細則に例会場を記載する件(大阪北RC)の2件のみであったが両案ともに否決され残念であった。
- (2) 規定審議会に提出された改正案188件を討議する会合(RI細則9-2)を本年1月12日(水)午後、業業年金会館において開催した。当日は規定審議会のクラブ代表伊藤バストガバナーを中心に各クラブ会長に集合してもらい熱心に討議した。そしてこれを各クラブで更に十分検討してもらった上で、賛否のアンケートを1月31日(月)までに提出してもらったこととした。
- (3) 前項の改正案に対するアンケートは当初の予定より締切日を早めたにもかかわらず53RC全部が提出された。これを2月上旬までに集計整理して、参考資料として規定審議会のクラブ代表伊藤バストガバナーにお渡しした。
- (4) その後RIより送付された追加改正案については検討する時間的余裕なく、クラブ代表伊藤バストガバナーに一任の形となった。
- (5) 規定審議会での審議内容結果については、4月14日(木)午後ロイヤルホテルにおいて開催される地区年次大会前日の会長・幹事懇談会の席上、クラブ代表伊藤バストガバナーから説明を聞く。

2. ロータリー情報の普及徹底に関する活動

- (1) 「ロータリー情報の普及徹底を図るための具体的手段方法について」を議題として、各クラブロータリー情報委員長会議を昨年8月28日(土)午後、ホテル南海において開催し、それなりの成果をおさめた。
- (2) 各クラブに規定情報委員会もしくは規定担当者を常置してもらうよう強く要請した
- (3) ガバナー月信の「規定情報コーナー」に規定ばかりでなく、広範囲のロータリー情報を掲載するよう努力した。

3. 次年度早々にクラブロータリー情報委員長会議を開催し、規定審議会で採決された改正案の研究討議をしたい。しかし今年度は規定審議会が早期に開かれたためその決定に対する意志表示がいつまでになるか?

予算 80,000 支出累計 86,400 残高 △6,400

雑誌委員会

委員長 今井悠紀 (大阪)
 委員 村主恵快 (茨木)
 " 滝岡敏郎 (大阪住吉)

1982年11月20日(土)、中之島NCB会館にて地区内49RCの雑誌委員長が出席し、1982～1983年度第266地区雑誌委員長会議が開催され、“ロータリーの友”を中心に活発に討議された。会議は「友」副委員長の加藤進治バスタガバナーより、「RIの公式雑誌で、購入を義務づけられている「友」は、ロータリアンの雑誌であり、会員自らが編集に参画できる。会員の「友」に対するご批判・ご意見は大歓迎で、村主地区委員を通してどしどしお寄せ戴きたい。それが「友」の発展と、会員の「友」への親しみにつながる。」という趣旨のスピーチで始まった。次いで川崎「友」編集長から、編集方針・編集作業の進め方の具体的な説明があり、全出席者がI.G.F.のグループ毎に討論した。各グループから貴重な意見、或は疑問点等が数多く出されたが、加藤バスタガバナー・川崎編集長ともども丁寧かつ率直に答えられていたのが大変印象的であった。最後に種田直前ガバナーから「雑誌委員長の皆さんの熱心なご努力によって、地区内から“ロータリーの友”に対する投稿が次のように増加している。」という発表が行なわれた。

| | ロータリーアトワーク | 友愛の広場 | 卓話の泉 | その他 |
|-------|------------|-------|------|-----|
| 1980年 | 34件 | 11件 | 22件 | 18件 |
| 1981年 | 40件 | 19件 | 23件 | 27件 |

予算 120,000 支出累計 7,325 残高 112,675

職業奉仕委員会

委員長 中島 誠 (池 田)
委員 城野和三郎 (大阪阪南)
" 松本武夫 (池 田)
" 大西 淳 (大阪平野)

本年度はロータリーの金看板である職業の倫理性について会員の自覚を喚起すると共にその日常の行動が職業奉仕にほかならないとの認識の上に立って各自の職業の従業員に至るまで職業奉仕の精神を伝え、特に四つのテストの徹底に格別のご努力をお願いした。そして疑問を生じた時の座右の書として元第264地区ガバナー小中義美著「奉仕こそわが職業」を推薦し、必要に応じてフォーラム等に活用される様お願いした処、会員の職業奉仕に関するご熱意の程は十分感得されたが、職域に浸透させるという点については、いささか物足りなさが感じられる。吹田クラブで毎週の例会日を職業奉仕活動日とし職域で何か一つを実践するという事例が特に注意を引く程度である。

次に職業奉仕事例集の作成をお願いしたが、かなりのクラブで熱意をもって戴き、すでに大阪、大阪心斎橋、寝屋川及び摂津の四クラブでは作成配布を終わられ、原稿の収集をほぼ完了されたクラブにも大阪平野、大阪南西の二クラブがあり、今後の発行計画を決定されたクラブに箕面中央、大阪難波、守口、豊中—大阪国際空港の四クラブがある。さらに週報に会員の奉仕事例を掲載されるクラブが大阪阿倍野、吹田、大阪住之江の三クラブで、隠れた職業奉仕事例の情報収集を計画しておられるのが八尾クラブでまことに心強い限りである。

また現在の深刻な不況下にあつて会員はそれぞれの所属する団体同業組合等において直面しておる種々の困難な問題の解決にあたってロータリー精神にもとずき、指導力を発揮して戴く様お願いしたが、この点ご報告する事例のないことは残念である。今後のご活躍に期待したい。最後に職業奉仕週間における行事については職業奉仕に関する卓話が主流でつづいてフォーラム、職場訪問、優良従業員表彰等の順位で各クラブにおいて実施されたが、いささかマンネリ化しておる様に考えられる。ただ高槻東クラブが雇主従業員デーの一環として会員企業が参加し、第一回職域対抗親善ソフトボール大会を開催したことは特筆に値する。職業奉仕週間も来年度よりは月間となることが決定しているので四つのテストの地域社会への拡大、青少年との対話、親切競争等はば広く企画することが望まれる。現在地区委員会で実施中のものは15クラブを選んで職業奉仕に対する自問自答アンケートをお願いし集計のうえ今後の職業奉仕についての参考資料にしたいと考えている。

再任する次年度職業奉仕委員長として、委員会で検討を希望する事項は、

イ. 前期につづいてアンケートの実施

ロ. 地域社会への四つのテストの拡大方法

ハ. 貿易摩擦に対処する職業奉仕のあり方

ニ. ロータリアンはすべて職業奉仕の実施者であるから卓話その他の機会をとらえ全員

その実績を報告する慣行を作る。

予算 100,000 支出累計 29,712 残高 70,288

社会奉仕委員会

委員長 森田一夫 (東大阪)
委員 菱川正夫 (大阪南)
" 紀太敬一郎 (大阪大淀)

1. 本年度の方針として

(1) 各クラブの社会奉仕活動のより一層の活性化を図る。

(2) クラブの社会奉仕は委員会のみには依存する事無く全員が関心を持ち高揚する。

二項を想定し活動計画をたて、下記の通りに実施した。

(1) の社会奉仕活動の活性化については、各クラブとも夫々地域の持つ特殊性を考慮して工夫努力されているが、他クラブの活動状況を広く知り今後の計画実施の参考資料としていただくために、

A. 前年度(1981~82)の社会奉仕活動の実績

B. 本年度(1982~83)の特に目新しい事業計画

C. 社会奉仕活動遂行に当たっての問題点

の三項目設問事項に就いてのアンケート調査をしたが、53クラブ中52クラブより回答を得た。(回答率96%強)これを整理し、「社会奉仕にかんするアンケート回答集」の小冊子として各クラブに送付した。回答中には興味ある具体的事例も多々あるが紙面の都合上省略させていただく。方針(2)に就いても回答集を御覧願えれば各クラブの社会奉仕への取り組み方についての傾向もある程度把握できると思われるので、御利用願いたい。

2. 当委員会として直接、間接御相談を受け、又御援助した3クラブの活動を簡単にご紹介する。

(1) 大阪大淀クラブ

創立10周年として新築のシンフォニーホール前庭にロータリーの森を贈呈された。

詳細ガバナー月信10号を御覧願いたい。

(2) 大阪北クラブ

盲人用の点字地図を作成し、ライトハウスを通じて盲人に贈与された。常に積極的な活動をされている当クラブがユニークな企画をたて実施されているのに敬服する。

出来得れば一区域にとどまらず大阪市全域にまたがる様戸田ガバナーにも依頼し大輪会で検討願う様にした。

(3) 大阪天満橋クラブ

社会奉仕の原点に今一度戻って決議23-34に就いての研究をしようという強い考えからフォーラムを実施された。本フォーラムに原田秀雄担当パストガバナーをカウンセラーとして出席願ひ熱心な会員からの意見・提言があり、とにかく関心が薄れがちな決議23-34の関心を強めたことは非常に有意義な催しであった。今後各クラブにおいてもこのような催しを実施されるよう希望する。

予算 100,000 支出累計 66,145 残高 33,855

環境資源委員会

委員長 西村一夫 (池田)
委員 岡村国継 (大阪柏原)
" 山中貞爾 (箕面)

当委員会は、各クラブが「地域の事情を充分勘案して効果ある奉仕活動を展開されることと期待して、資料や情報の提供に努めること」を方針として下記の活動を行なった。

(1)10月1日付書簡を以て各クラブに下記の事項を依頼した。

- (a)建設省からのロータリークラブに対する要請に応じて、同省が実施する都市緑化運動に対し、各クラブがそれぞれの地域において協力されること。
- (b)戸田ガバナーが期初のガバナー会議で、今年度社会奉仕活動の重点として提案され採択された「松くい虫の被害から松の緑を守る運動」を推進するため「日本の松の緑を守る会」に積極的に参加されること。
- (c)クラブ単位の奉仕活動の参考として、各クラブが過去に実施し、あるいは今年計画している活動の内容についてのアンケートに回答をいただくこと。

(2)上記アンケートに対する回答は、今年初めまでかかって52クラブより回収され、整理印刷の上、2月に各クラブに配布された。その内容を摘記すると、

- (a)環境資源委員会を設けているクラブは14、社会奉仕委員会に担当を置いているクラブは16、それ以外のクラブは22となっている。
- (b)これまでの活動の内容は、(i)緑化に関する事業が最も多く31クラブ。中でも大阪市内クラブの共同事業である「大阪市緑化運動」や、大阪南クラブの「ポケット公園」等の継続事業の外、池田、守口、大阪西、八尾、大阪大淀等諸クラブの創立記念の大規模事業が際立っている。(ii)環境の浄化、整備に関する事業も巾広く実施されており、(イ)ノーボイ運動、クリーン・キャンペーン、清掃の実施等について17クラブから報告があり、(ロ)近頃大きな社会問題になっている自転車の放置や不法駐車防止に取り組んでいるクラブが5クラブ、中でも大きな成果を上げた八尾クラブの活動が目立つ。(ハ)ゴミ箱、便所、記念碑、看板等の設置を行なったところ8クラブ、その他城北運河に継続して稚魚の放流を実施している城東クラブの活動は真にユニークである。
- (c)今年度の活動計画の種類は、過去の事例と大差ないが、上述の大阪大淀クラブの10周年記念事業のロータリーの森、及び大阪クラブの60周年記念の植樹事業は稀有の事業として注目される。
- (d)活動実施に当たっての問題点としては、(i)植樹にはあとの補充や手入れが問題である。(ii)クラブ予算に限度があり、有効な活動が行ないにくい。(iii)会員の動員が思うに委せず、金銭や者の寄付に終わってしまう。(iv)広域的な活動を必要とし、クラブ単独では無理な場合がある。(v)土地の業者(清掃等)からクレームがあった例がある等の経験、意見が寄せられた。

予算 100,000 支出累計 56,175 残高 43,825

青少年奉仕部門

担当パストガバナー 伊藤恭一（大 阪）

地区再編成によりクラブ数も減少したため、青少年奉仕部門は青少年活動、ローターアクト、インターアクトの三委員会制とし、ライラは青少年活動委員会に併合し、特に支障もなかった。

今年度の規定審議会において83-83「R.I.常任委員会とし青少年奉仕委員会を設置する件(R.I.理事会提案)」は可決されたことは、今後のR.I.における青少年奉仕に関する方針、指示の統一が期待される。一方、豊中RCの提案の83-38「青少年への奉仕を綱領の第5項とする件」は否決されたのは、代議員として残念であり、かつ申し訳ない次第である。しかしながら、綱領に関する案件は事前の準備運動が大切であることを痛感するものである。

(追 記)

1983年規定審議会決定事項のうち青少年奉仕部門は次の通り

制(83-83)R.I.の常任委員会として新に青少年活動委員会を設置する。

R.I.細則第14条第1節

決(83-173)I.A.C.及びR.A.C.の標準定款の改正を制限する件

度々の改正による混乱を抑え、各I.A.C.及びR.A.C.の自主性を尊重することを目的として、それらの定款の改正は規定審議会の翌年に限定する。

決(83-195)I.A.C.の正式会合成立の為の条件を緩和

標準インターアクトクラブ定款によるとI.A.C.またはその理事会の会合は提唱RCのインターアクト委員が出席しなければ正式のものとは認められないとあるを、学校を基盤とするI.A.C.にあっては提唱RCのI.A.委員の出席がなくとも、正式のものとして認める。

青少年活動委員会

| | | |
|-----|------|---------|
| 委員長 | 吉川 稔 | (寝屋川) |
| 委員 | 小杉建次 | (大阪天満橋) |
| 〃 | 石田征男 | (大阪西) |
| 〃 | 徳永篤順 | (大阪天満橋) |
| 〃 | 橋本 隆 | (八尾東) |

1. ブロック別青少年委員長会議

地区内ロータリークラブをAブロック27クラブ、Bブロック25クラブに分け、青少年奉仕部門各委員長出席のもと青少年活動の問題点や青少年奉仕に対する取組みの情報交換を行ない、今後の参考とした。又地区からはロータリー仲よしキャンプ及びライラの参加要請とローターアクトクラブ、インターアクトクラブに対する理解を深めていただいた。

2. ロータリー仲よしキャンプ

ロータリー仲よしキャンプも回を重ねる事三年になり、地区ではほぼ定着したようである。参加少年達は例年の事ながら、感謝の手紙或いは感想文等を見ると楽しくてしかたないという感じである。本年は参加少年41名参加クラブ12クラブで少年達及びカウンセラーの感想文を地区でまとめて文集にし266地区内全クラブと全参加少年達に送付した。

尚、開催日時、場所は下記の通り

イ.開催日時 昭和57年8月24日～26日(2泊3日)

ロ.開催場所 大阪府総合青少年野外活動センター 大阪府豊能郡能勢町宿野(北摂高原)

3. ライラ ロータリー青少年指導者養成セミナー

地区分割に伴ない本年度のガバナー方針により青少年活動委員会が「ライラ」計画を実施する事となった。当初活動方針通りセミナーを通じて地域及び勤務先で指導者たり得る素質ある若者に実施訓練の機会を与えて、青少年の指導力を育成し、地域及び勤務先での活躍を期待すると共にロータリーの奉仕の精神を理解してもらった。

イ. Aブロック

| | |
|--------|----------------------------|
| 開催日 | 昭和57年10月9日～11日までの2泊3日 |
| 場所 | 大阪府総合青少年野外活動センター |
| ホストクラブ | 池田ロータリークラブ |
| 参加者 | 57名(内青少年27名、ロータリアン及び講師30名) |

ロ. Bブロック

| | |
|--------|----------------------------|
| 開催日 | 昭和58年3月19日～21日迄の2泊3日 |
| 場所 | 大阪府総合青少年野外活動センター |
| ホストクラブ | 八尾東ロータリークラブ |
| 参加者 | 109名(内青年61名、ロータリアン及び講師48名) |

予算 1,800,000 支出累計 999,899 残高 800,101

ローターアクト委員会

委員長 津江孝夫 (大阪南)
 委員 鴻野真太郎 (大阪西)
 " 吉岡清輝 (大阪東)
 " 平井朝巳 (寝屋川)

地区分割によって地区内14クラブの距離が近くなったので、各クラブ間の運営・活動の情報交換が容易になった。また、大阪ゾーン、北大阪ゾーンでは、それぞれゾーン代理が毎月会長会を開催して、隔意ない意見の交換を行ない互いに刺激を与えるとともに、地区代表、地区幹事等役員が各クラブの例会に出席して、運営・活動の状況を把握しながら、アドバイスするなど「RACは一つ、みんなで作ろう266」のターゲットを着実にすすめてきた結果、会員の増強、活動に相当成果を上げたが、2・3のクラブは会員の減少が著しく、下半期に奮起して会員増強に努力し、提唱クラブも不断の積極的な指導助言と後援が必要である。

本年度は国際ロータリー理事会の決議によると、ローターアクトクラブの会長、幹事が提唱ロータリークラブのガバナー公式訪問の時、クラブアッセンブリーに出席するよう要望されているが、現実には不可能に近いので、年初の地区合同連絡協議会の最終プログラムに戸田ガバナーにご出席を願い、各クラブの活動方針、活動計画を聴取された上、クラブごとに懇切丁寧な指導助言を受けた事は誠に有意義であった。

ローターアクトクラブの強化は、会員増強が最も重要な課題のひとつであることはいままでもないが、新入会員に対するローターアクトクラブの目的・目標及び活動に関する教育を十分に実施していない。したがってローターアクト活動を理解しないうちに退会していく者、あるいは基本的なクラブ運営に同化協力できない会員もあるので、地区委員会は上半期中に地区代表、地区幹事等役員を中心に、OBの旧地区委員、クラブ役員等10余名が新入会員のオリエンテーションを開催するよう準備を進め、ガイドブックの編集も終わり、2月20日に1982年2月以降の入会者48名が参加して実施し、ローターアクト活動に対する理解を深め会員としての自覚を促進することができた。この機会をもった地区委員会、地区役員は、新入会員のローターアクトに関する素直な質問から、今後のクラブ運営・活動に対する問題点や新入会員の教育など大いに参考になり、次年度も引き続き開催されるよう希望するが、本来は提唱クラブのローターアクト委員会が実施されるべきものと思う。

本年度末には年齢制限により、経験豊かな会員の退会者が多く、そのために次年度ローターアクト地区役員候補者選出は困難を極めた。従って各クラブとも年齢構成に一層留意するとともに提唱クラブの一層の指導助言が望まれる。

| 今後の活動予定 | 行 事 | ホ ス ト | 会 場 |
|---------|----------|-------|--------|
| 4月24日 | 新旧会長・幹事会 | 八尾東 | 八尾農協会館 |
| 5月15日 | 地区年次大会 | 大阪西 | 相愛学園校舎 |

予算 3,000,000 支出累計 2,402,920 残高 597,080

インターアクト委員会

| | | |
|-----|-------|--------|
| 委員長 | 平岡英信 | (大阪南) |
| 委員 | 阿部晴彦 | (大阪) |
| 〃 | 橋本喜八郎 | (大東) |
| 〃 | 畑田 豊 | (大阪城南) |
| 〃 | 高林辰行 | (大阪西北) |

今後の行事予定

1. 4月30日大阪都ホテルにて四天王寺高校 I A C (大阪南 R C 提唱、部員数約40名)の
認証伝達式を14時より挙行。
2. 昨年12月25日より29日まで264地区 I A C との合同海外研修旅行のレポートを5月上旬
に発行予定(500部)
3. 264地区と合同の I A の機関誌スクラムを5月下旬に発行予定。

報告と申し送り事項について

1. 266地区二分割の結果266地区では11 I A C が5クラブとなったが、戸田ガバナーの要請 に基づ
き、また伊藤 P G の指導のもと加えて阪南 R C の真剣な取組みと積極的なご努力によつて四天王
寺 I A C の設立を見、R I の認証を得て、4月30日認証伝達式を挙行する運びになったこと
は喜ばしい。また更に新しいクラブの誕生に向けアプローチをつづけている。
2. 海外研修旅行については264・266地区合同により中国、香港、マカオにおもむき現地インター
アクト・ロータリー合同の奉仕活動の実践や両国マンツーマンによる観光と交歓会を
催し、国際親善、相互理解、友情親睦を深めた。更に共産圏への入国ははじめての試みで
あったが、I A にとってその得るところは大きかったようだ。更に新聞記者の同行によつて
パブリシティによるロータリークラブの存在、インターアクトの活動状況が新聞で P R され
たことは意義深かったと思う。
3. インターアクトに関しては奉仕活動のあるべき姿の認識とその実践について学校、顧問、提唱
クラブそしてメンバー一人一人の自覚を啓蒙し、アフターフォローが必要。
4. 各インターアクトクラブにインターアクト地区委員を一人づつ割り当てて強調と連絡を密に
して活動することがよいのではなからうか。
5. 更に2地区に分割されたものの264地区よりの要望もあつて海外研修旅行に関しては
2地区合同が望ましい。
6. インターアクトクラブの過去における実績と培われた伝統を大切に、しかも現状を把握し、現
場のニーズを汲み上げ、それに対応する活動を展開することが必要と思う。
7. インターアクトクラブの活動に対し、各クラブがより積極的理解とバックアップを
ガバナーより各ロータリークラブへお願いする。

| | | | | | |
|----|-----------|------|-----------|----|---------|
| 予算 | 2,500,000 | 支出累計 | 1,811,975 | 残高 | 688,025 |
|----|-----------|------|-----------|----|---------|

世界社会奉仕委員会

- 委員長 吉野昭夫(豊中—大阪国際空港)
委員 細川益男 (大阪南)
" 世戸一夫 (大阪難波)
" 増田 鼎 (八尾)

当委員会は、本年度委員長及びその職務代行者に変更があり、私が3人目の委員長として前任委員長の計画案に、私なりの演出を加え推進執行する方法を取りました。すでに完了したプロジェクトは

1. 岩村昇博士PHD運動に30万円
2. 日本BCG基金に10万円
3. YWCAアジア・アフリカ難民救援資金に30万円
4. アジア協会を通じインドに井戸のさく岩費用に200万円
5. スリランカ・コロombo北RCと協力、マヒンダ福祉センターに150万円

であります。4のアジア協会の件については、ガバナー及びガバナーノミニーにもご同行戴きお手渡しいたしましたが、当日はテレビ、新聞等の取材を受け広く報道されました。広報委員会にもお世話になりました事を付け加えます。5のマヒンダ福祉センターの件に関しましては、菅生国際奉仕部門パストガバナーを団長、伊瀬ロータリー財団部門パストガバナーを副団長をお願いいたし、18名の使節団を現地に派遣、贈呈式はコロombo北RCは勿論、関係閣僚の外、地区警察、名士の方の出席を得て盛大に行なわれました。また同日大統領から御招待を受け全員が謁見し、菅生団長が親しく両国間のプロジェクト推進に関するお考え方などを話されました。非常に歓迎を受けた事を付け加えます。1~3までのプロジェクトについては所定の方法で送金いたしました。尚、すでに委員会で決定を得、お手渡しするのみとなっているものが2件あります。

1. カリタスジャパン、アジア・アフリカ難民救援資金に30万円
2. 守口RC、フィリピン・ネグロス島医療奉仕に地区より協賛80万円

目下懸案事項としては、ガバナー事務所間で連絡を取り合っている、ブラジル459地区カンピーナス北RCとの協賛事業100万円があります。これらの総計は630万円であり地区に拠出された8,111,812円の77%に当たります。残余の1,811,812円は緊急救援要請実施の為に引き当てて留保いたしております。

途中からではありますが、これらの業務を通じて我が国の国際的に置かれた地位をよりよく理解し、RCが国際的ボランティア活動の推進力とならねばならない事を知りました願わくばRIからの救援情報の迅速性、要請地の事情紹介等を的確にお願いしたい事と、単に資金を送金するという事にとどまらず委員会そのものが国際交流を兼ねた奉仕のあり方を考えねばならない事と、実施地のRCに積極的な参加を要請し、RCとして意義ある推進方法を見出だすべきである事などを次期委員長へ申し送りしたいと思います。

| | | | | |
|----|---------|------|---------|--------|
| 予算 | 150,000 | 支出累計 | 126,410 | 23,590 |
|----|---------|------|---------|--------|

青少年交換委員会

- 委員長 辻中昭一 (大阪梅田)
 委員 橋本憲之 (大阪南)
 " 木川 稔 (摂津)
 " 永野啓之介(豊中-大阪国際空港)
 " 世戸一夫 (大阪難波)

1. 青少年交換ファンドの増額について

1981~82年度においては、会員分担金年額1,000円であったものを2,000円に増額してもら
 うため、10月16日各クラブ青少年交換担当者の集会を行ない、賛成を得11月13日付けで各
 RC会長、国際奉仕委員長、青少年交換担当委員(長)宛「青少年交換ファンド増額に関する
 件」の依頼状を発送、大多数のロータリークラブの強力を得ている。

2. 米国より来日、留学中のもの(長期)(6名)

| 氏名 | | 地区RC | ホストRC | 到着日 | 勉学校 |
|----------------------------------|---|----------------------------------|-------|-----------|----------------------|
| Jill C. Reilly ジル ライリー | 女 | D.726(米) Comack Kings Park RC | 大阪城北 | 1982.8.23 | 大阪信愛学園高校 |
| Paul E. Booth ポール ブース | 男 | D.739(米) Carlisle RC | 大阪難波 | " | 清風学園高校 |
| Melani L. Callaway メラニ ギャラウェイ | 女 | D.584(米) New Brauntels RC | 大阪南 | " | 帝塚山学園高校 |
| Jane M. Bohanan ジェーン ボハナン | 女 | D.622(米) Houghton RC | 大阪北 | " | 大谷学園高校 |
| Scott M. Petersen スコット ピーターセン | 男 | D.631(米) Saginaw RC | 四条畷 | " | 門真南高校 |
| Sally S. Cornwell サリー コーンウェル | 女 | D.595(米) Winona RC | 大阪東淀 | " | 雲雀丘高校 (膝の手術のため帰国) |

3. 米国へ留学中(帰国した)もの (長期)(6名)

| 氏名 | | スポンサーRC | 受け入れ地区 | 出発日 | 帰国日 |
|------|---|---------|----------|-----------|-----------|
| 飯田正美 | 女 | 大阪北 | D.595(米) | 1982.3.30 | 1983.3.29 |
| 坂本久美 | 女 | 大阪東淀 | " | " | " |
| 中田寧子 | 女 | 大阪南 | D.584(米) | 1982.8.18 | 1983.7月予定 |
| 川崎由佳 | 女 | 大阪城北 | D.726(米) | " | " |
| 松村 淳 | 男 | 四条畷 | D.631(米) | " | " |
| 西川朝子 | 女 | 大阪難波 | D.787(米) | " | " |

4. 短期交換により来日したもの (4名)

| 氏名 | | ホストRC | 派遣地区 | 期間 |
|----------------------------------|---|-------|----------|--------------------|
| Tom Shaffer トム シェーファー | 男 | 大阪北 | D.671(米) | 1982.7.12~8.9 |
| Ruth Ann Mofield ルス アン モフィールド | 女 | 田辺東 | " | " |
| John Hodge ジョン ホッジ | 男 | 和歌山東 | " | 1982.7.29~8.21 |
| Ruth Ann Kotgur ルス アン コーザー | 女 | 池田 | D.797(濠) | 1982.12.20~83.1.25 |

5. 短期交換により渡米したもの (5名)

| 氏名 | | スポンサーRC | 受け入れ地区 | 出発日 | 帰国日 |
|-------|---|---------|----------|-----------|-----------|
| 辻 哲也 | 男 | 和歌山 | D.671(米) | 1982.7.25 | 1982.8.24 |
| 辻本浩一 | 男 | 田辺東 | " | " | " |
| 菅生 修 | 男 | 大阪北 | " | " | " |
| 川北京子 | 女 | 大阪南 | D.573(米) | " | " |
| 永田安紀子 | 女 | 千里 | " | " | " |

6. 米国より来日予定のもの (長期)(6名)

| 氏名 | | 地区RC | ホストRC(交渉中) | 到着日 | 勉学校 |
|--------------------------------------|---|--------------------------------|------------|--------|-----|
| James R. Steman ジェームス ステマン | 男 | D.595(米) Golden Valley | 大阪北 | 1983.8 | 未定 |
| Lisa A. Wedell リサ ウェデル | 女 | D.595(米) Burnsville | 寝屋川 | " | " |
| Andrea E. Myklebust アンドレア マイクルバスト | 女 | D.625(米) Downtown La Crosse | 箕面 | " | " |
| Amy D. Leh エイミー リー | 女 | D.751(米) North Hunterdon | 大阪西 | " | " |
| B Andrew Hoover アンドルー フーバー | 男 | D.739(米) York | 大阪東 | " | " |
| W Sean Bread シーン ブレッド | 男 | D.584(米) Seguin | 大阪阿倍野 | " | " |

7. フランス・カナダより留学するもの (長期)(2名)

| 氏名 | | 地区RC | ホストRC | 到着日 | 勉学校 |
|------------------------------------|---|----------------------|-------|--------|------|
| Agnes M. N. Brossollet アグネ ブロソレ | 女 | D.172(仏) Chartres | 箕面中央 | 1983.5 | 青山短大 |
| 未定 | | 未定 | 八尾中 | 未定 | 未定 |

8. 米国・フランス・カナダに留学するもの (長期)(8名)

| 氏名 | | スポンサーRC | 受け入れ地区 | 出発日 | 備考 |
|------|---|---------|----------|-----------|--------|
| 森川千彰 | 女 | 大阪北 | D.595(米) | 1983.3.26 | |
| 辻野美法 | 女 | 大阪阿倍野 | D.595(米) | " | |
| 小林希生 | 男 | 八尾中 | D.707(カ) | 交渉中 | |
| 野口恵子 | 女 | 箕面中央 | D.172(仏) | 1983.3.30 | 大学生として |
| 平井久代 | 女 | 寝屋川 | D.584(米) | 1983.8 | |

これ以外に3名の派遣を予定している。

9. 1983年度夏期(短期)の青少年交換計画

D.122(英国)、D.671、D.573(米)へ若干名を派遣し、若干名を受け入れるため交渉中である。

米山奨学委員会

| | | |
|-----|-------|--------|
| 委員長 | 武尾敬之助 | (大阪西北) |
| 委員 | 木梨正夫 | (東大阪中) |
| 〃 | 口羽玉人 | (豊中南) |
| 〃 | 山東周三 | (吹田) |

1. 募金活動状況

過年度の募金実績は普通寄付12,857千円、特別寄付44,612千円、合計57,470千円(一人当たり16,637円)で全日本の9.6%となり、全国26地区中第一位を続けた。

本年度の地区目標は一人当たり15,000円総額53,130千円としている。今年2月までの実績は普通寄付7,211千円、特別寄付40,918千円である。普通寄付は通年12,850千円と見込まれるので本年度期末の寄付総額は地区目標に達するものと思われる。

米山週間にはクラブの要請に応じて奨学生及び米山奨学地区委員が例会卓話を担当して会員の関心を新たにし又IGFに於いても地区委員より米山への協力を懇請して夫々PR効果を得たものと思われる。

2. 米山奨学生

本年度地区で預かった奨学生数は26名であった。その内3月末で奨学期間終了になった学生数は9名であり、うち2名は博士の学位を得た。4月から始まる奨学生数は継続支給の学生17名に新規の奨学生13名を合わせて30名となる。奨学生をお預けする世話クラブとカウンセラーの方々には格別のご配慮をいただき学生から感謝されている。

昨年11月深秋の休日第264地区と合同で奨学生の和歌山城と和歌山市の工場見学会を催し、和歌山地区のロータリアン多数の有志との昼食会が持たれ学生に多大の感銘を与えた。

当地区の奨学生はすべて大学院の博士課程の院生で母国の大学の推薦により半年乃至1年の大学院研究生を経て日本語にも習熟して合格したものでロータリークラブ・ロータリアンの暖かい援護のもとに留学生活を送っており、問題になるようなことはない。

3. 結論

以上のような状態で目下のところ当委員会の仕事は順調に遂行されている。

予算 350,000 支出累計 244,011 残高 105,989

委員長 宮田宏章 (大阪北)
委員 湖崎 克 (大阪東)
" 中谷庄八 (大阪西)

1. 地区委員長活動報告

- (1) 第459地区とマッチド地区としての組合せの初年度であり、7月末に地区内の現在の交流状況のアンケートを実施、まとめを11月度のガバナー月信に掲載。
- (2) 9月30日に地区内の各国際交流担当委員長会議を開催。実施したアンケート結果に基づき、今後の交流の進め方並びに現状の交流を討議、以下の方針を決定した。
 - イ) 姉妹・友好・マッチド交流をキイとして世界社会奉仕にまで発展させたい。
 - ロ) 交流のないクラブは、出来るだけ努力して交流につとめる。
 - ハ) 第459地区とは距離的に遠いが、日本人もいることであり、活発な接触を行なって交流の道を開く。
- (3) 国際交流委員長が交流の糸口として11月に10日間、ブラジルサンパウロ州を訪問。地区ガバナー夫妻と面談し、戸田ガバナーの意向を伝えた。第459地区のRC例会に出席し、266地区内の交流希望クラブ会長のメッセージを提出した。
- (4) 12月22日に、世界社会奉仕・国際交流合同委員会が開催され、マッチド地区内と266地区内の交流組合せの案が提出された。
 1. 東大阪東RC ----- アッティバイアRC
 2. 枚方くずはRC ----- ブラガンサ・パウリスタRC
 3. 大阪北RC ----- キンピーナスRC
 4. 東大阪中RC ----- キンピーナス北RC
 5. 大阪港RC ----- ジュンダイRC
 6. 八尾RC ----- モコカRC
- (5) 上記組合せクラブに対し、相手先クラブの現状を報告し、各クラブで交流を進める様各会長に要請した。
- (6) 上記日本の6クラブから、日本及び大阪を紹介した本を相手国に送付したりして、通信の交流を深める手助けを図りたい。又、交流状況をアンケートし促進に努めたい。
- (7) 今後は、WCSと協力することにより、459地区との友好・相互交流を深め、世界社会奉仕にまで今期中には実行したい。

2. 次年度委員長へのメッセージ

第459地区は日本と地理的に遠い距離に位置しているが、現在手紙のやりとりは比較的早く進行している。相手クラブによっては日本人も会員になっているので、日本語のわかる会員を通じて交流を図るのがスムーズに行くと考えられる。現地はポルトガル語が国語であるが、英語でも充分通用し、言語による障害はそれ程ないと思われる。ブラジル人は形式ばったやり方の中にユーモアがあり、非常に親しみやすく親日的である。サンパウロ市内461地区には、日系人を主流としたサンパウロ・リベルダーデRCがあり、このRCをKEYとして、新規交流クラブの拡大を図るのも一策である。

予算 150,000 支出累計 88,970 残高 61,030

トロント大会行委員会

委員長 土屋 正 (大阪難波)
委員 増田 鼎 (八尾)
" 丸谷英徳 (大阪北)
" 大橋健一 (高槻東)

1. 活動状況

- (1) 年初頭に立案した計画に基づいて、大会参加のムードを盛り上げるためにトロント及びカナダについての解説、徳にR I会長を日本から出している記念すべき時であることを強調した勧誘文を全会員に配布した。(10/4)
- (2) 月信8号において「貴方の従兄弟がトロントで待っている」の一文をのせ、参加する責任を強調し、又大いにメリットのある点を解説した。
- (3) 各クラブ会報委員長宛に週報に空欄が生じた時は、必ずトロント大会を入れてくれるように依頼した。(12/5)
- (4) 全クラブ会員アンケートを実施した(2/10)回答率はよくなかったが、各クラブそれぞれ努力が感じられ、50名の参加回答を得た。
- (5) 3月末再度4月15日の申し込み期限について注意を喚起するため各国際奉仕委員長週報委員長宛周知徹底方協力を依頼した。(3/22)
- (6) R I会長を囲む朝食会(6/6 AM8:00)に参加するよう月信11号で訴えた。

2. 今後の実施方針

- (1) 最後の追い込みに入った段階に於いては各クラブの状況を極力把握し、特に相互の誘い合いをお願いするよう連絡をとる。
- (2) 最終的参加人員を集計して次年度の参加に供する。

予算 100,000 支出累計 61,700 残高 38,300

(追記)

トロント大会参加者は15,000名の予定。

ロータリー財団部門

担当バストガバナー 伊瀬芳吉 (池田)

本年度始めより3月末に至る財団活動は、年初計画通り略々実績を得たものと判断している。これ偏えに4委員長をはじめ各委員の格別のご努力の賜と感謝している。

各委員会の活動内容は夫々の委員長より詳細報告を願うことにしているので、ここでは総括的なことを簡単に報告したい。

先ず財団増進委員会は、寄付目標70ドルに対し財団本部よりの2月末日現在の報告では46,53ドルとなり、8ヶ月経過した実績とすれば、目標すれすれといった数字である。これからの3ヶ月間レートが新しく240円となり、少しでも考え易くなるので特に地区平均以下のクラブに強力なラストヘビーをお願いする次第です。

財団奨学金委員会については、1983~84年度の奨学生9名について学友委員会と共同で、2回のオリエンテーションを行ない、着々と出発に備えて準備している。尚、1984~85年度の奨学生目標9名については既に各クラブで受付を終わり、検討の上目下ガバナー事務所に書類を提出してもらっている。4月9日第1次、4月22日第2次選考試験の予定である。

研究グループ交換委員会としては、D.264と合同の形で1982年10月3日~11月6日まで濠州タスマニアD.983より6名のG.S.E.メンバーを迎え、両地区委員長の至れり尽くせりの計画の下、各関係者の格別のご協力の下大きな効果を上げて終了し、団員各位より限りなき感謝の辞を頂戴してお別れすることができた。

最後に財団学友委員会では財団奨学金委員会と一緒に上記2回の奨学生オリエンテーションを終えると共に、バスト・サービスクラブとの集会を年度内に計画しており、名簿の整理と共にOB各位との連絡を密にする予定である。尚、昨年11月の財団週間に際しては、24クラブにOB各位からの卓話者を斡旋している。

以上簡単ながら概要報告と致します。

(追記)

財団奨学金委員会では9名の奨学生と2名の補欠を4月22日に選考決定した。

(応募者41名中5名の欠席があった。その内3名は遅れて来場、他2名は追加試験を行った。外国語の専門委員を委嘱してあるので注意を要する。)

財団奨学生は各クラブでロータリー財団の理解を深めている。

財団週間は来年度より月間となる。

| | | |
|-----|-------|--------|
| 委員長 | 原 信一 | (大阪淀川) |
| 委員 | 石川増雄 | (大阪西南) |
| 〃 | 門野良雄 | (大 東) |
| 〃 | 禰宜田芳一 | (大阪北) |
| 〃 | 渡辺宏道 | (豊 中) |

1. 委員会活動報告

(イ)57年7月ガバナー事務所にて当委員会を開催。先ず本年度の地区寄付金目標は1人当たり70\$以上とすることを確認し、必達のためにとるべき具体策につき各種各様の意見交換をした。特にPHフェロー並びに準フェローの勸奨強化について論議した。更に、本年度地区のIGFの開催については既に定められた各委員の分担に従って出席し、財団関係の各種の情報をいかに効果的に提供すべきかについて中広く論議した。

(ロ)58年1月末の各クラブの財団寄付金残高が集計された時点で、地区の寄付金情勢の推移や目標額の達成の目途等について各クラブ財団委員長の注意を喚起するため2月22日付にてガバナー、財団担当PG並びに増進委員長連名の書簡を各クラブ宛送った。

尚、成績不振クラブに対しては今後一層の奮起を促した。1月末では1人当たり平均50\$強で予定の目標ライン41\$をかなり上回っていること、そして既に目標達成は13クラブ、更に達成が確実なクラブは14(40\$~70\$)であることから今後格別の異変がない限りまず本年度の目標達成は可能であろうかと考えられる。

(ハ)本年度IGFは去る2月19日をもって地区全部のフォーラムが予定通り実施され、担当委員は適切な情報の提供及びその他の関係報告をした。

2. 今後の予定

4月末現在の寄付金状況の数字がまとまり次第、財団増進委員会を開催する。そして、本年度寄付金の動向や年度末の見通し等について検討したい。いずれにしても再度各クラブ委員長宛状況報告書を送達し、成績不振クラブに対しては最後の努力をアピールしたい。尚、その際各クラブの手許寄付金は5月一杯までにRI本部に送金されるよう依頼する。

3. 次期委員長へのメッセージ

(イ)年度の地区財団寄付金目標はここ当分は会員1人当たり70\$台を維持すること。尚、財団寄付金の約70%前後はPHF並びにPH準フェローへの加入金に依存している実情に鑑み、引き続き会員への強力で辛抱強い勸奨が要請される。

(ロ)地区内IGFに対しては当財団増進委員会は事前にその担当を定めておくこと、そしてこの担当に従って各組フォーラムに出席して、関係の各種の情報特に寄付金状況等を報告して会員の理解と強力を要請して地区目標達成に努めること。

(ハ)ロータリー財団週間の活用

毎年11月の週間にはPHF拡充運動を主軸として財団強化に関する各種行事の実施を督促して財団の充実を期す。尚、期間中の卓話については例年各クラブからの要請が大変多いが、これに充分応え得るよう学友委員会、GSE等との連絡を密にする事。

予算 150,000 支出累計 74,273 残高 75,727

財団奨学金委員会

| | | |
|-----|--------|---------|
| 委員長 | 山口次郎 | (寝屋川) |
| 委員 | 藤井昭三郎 | (門 真) |
| " | 小西池庸吉 | (大阪北) |
| " | 名張隆政 | (吹 田) |
| " | 内藤和夫 | (吹田北) |
| " | 白羽弥右衛門 | (大阪阿倍野) |
| " | 菅田栄治 | (大 阪) |

1. 1984～85奨学生関係

(1-1)10/20 奨学生候補者数についてはCompetitiveを除いて8名である旨RIより通知があった。

(1-2)10/18 午後 第1回奨学金委員会をガバナー事務所で開催し(永井地区幹事及び264地区の辰巳委員参加)次の話し合いをした。

- (A)奨学生募集依頼書内容及びポスター配布先を検討し、11月下旬発送する。
- (B)応募者が申請書等関係書類に記載する際に留意すべき事項を検討、総括した。その注事項は、申請書用紙と共に送付する。
- (C)申請書受付期限を地区内RCは1983.3.1.ガバナー事務所は3.26.と決定した。
- (D)選考は第1次を4月9日大阪都ホテルで第264地区と共に行ない、第2次を4月22日大阪駅前第3ビルで行なうことに決定した。委員の作業分担についても相談した。

(1-3)3月30日第2回財団奨学金委員会をガバナー事務所で第264地区の委員等と合同で開催した。

- (A)第1次選考試験は第264地区と合同で行なうためホテル費用は両地区で分担する。
- (B)選考試験問題の選定と印刷及び語学担当専門委員委嘱について相談した。
- (C)奨学生申請者の資格のチェックと申請記載事項の点検について検討した。
- (D)第1次及び第2次選考の実施計画を相談した。

(1-4)3月26日に締め切った申請者は男18名、女23名、合計41名で受験の外国語は英語31名であり、264地区を含んだ昨年度の266地区の場合と比べると3名増であった。

注:選考決定は4月下旬であるため奨学生候補者については後日報告する。

(1-5)1984～85年度財団奨学生候補者の決定

1次試験はアベノ都ホテルで264地区と合同で実施

2次試験は大阪駅前第3ビル大阪市立大学文化交流センターで実施

選考経過と決定した候補者は次の通り。

1984～85年度 ローター財団奨学生選考経過

| | | 申請者(41名) (男18、女23) | 1次選考合格(19名) (男7、女12) | 2次選考合格(11名) (男4、女7) |
|-----|-------------|-----------------------|-------------------------|------------------------|
| 外国語 | 英米語 | 31 | 14 | 8 |
| | 独語 | 4 | 2 | |
| | 仏語 | 2 | 1 | 1 |
| | イタリア語 | 1 | 0 | |
| | デンマーク語 | 1 | 1 | 1 |
| | ポルトガル語 | 1 | 1 | 1 |
| | インドネシア語 | 1 | 0 | |
| 課程 | 大学院 | 22 | 12 | 4 |
| | 大学 | 14 | 5 | 5 |
| | 職業研修 | 2 | 1 | 1 |
| | 身体障害者教師 | 0 | 0 | 0 |
| | ジャーナリスト | 1 | 1 | 1 |
| 月 日 | 1983.3.26締切 | 4月9日 | 4月22日 | |

(41名は22RCより推薦)

国際ロータリー第266地区 1984～85年度財団奨学生候補者

正候補者 (8名)

| 氏名 | 性別 | 生年月日 | 推薦クラブ | 言語 | 最終学歴 | 留学志望国 | 種類 |
|-------|----|------------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 榎原美樹 | 女 | 1963.3.27 | 豊中 | 英 | 大阪大学 | アメリカ | 大学 |
| 鍵山三加子 | 女 | 1962.4.28 | 大阪大淀 | ポルトガル | 大阪外大 | ブラジル | 〃 |
| 高倉尚子 | 女 | 1961.10.26 | 寝屋川 | デンマーク | 大阪外大 | デンマーク | 大学院 |
| 村上信子 | 女 | 1962.9.24 | 大阪住吉 | 英 | 大阪大学 | アメリカ | 大学 |
| 矢作 弘 | 男 | 1947.11.12 | 箕面中央 | 英 | 横浜市立大 | 〃 | ジャーナリズム |
| 山田宏昭 | 男 | 1956.8.6 | 吹田 | 仏 | 京都大学 | フランス | 大学院 |
| 山中雅子 | 女 | 1961.1.21 | 大阪うつば | 英 | 慶応大学 | アメリカ | 大学 |
| 由井浜宏一 | 男 | 1961.11.27 | 吹田 | 英 | 関西大学 | アメリカ | 大学院 |

補 欠 (2名)

| | | | | | | | |
|------|---|------------|-------|---|--------|------|-----|
| 勝本晶子 | 女 | 1962.11.28 | 箕面 | 英 | 大阪外大 | アメリカ | 大学 |
| 安成憲一 | 男 | 1957.10.26 | 大阪阿倍野 | 英 | 大阪市立大学 | アメリカ | 大学院 |

Competitive (1名)

| | | | | | | | |
|-------|---|-----------|-------|---|-------|------|------|
| 田中裕美子 | 女 | 1953.12.6 | 大阪阿倍野 | 英 | 大阪教育大 | アメリカ | 職業研修 |
|-------|---|-----------|-------|---|-------|------|------|

2. 1983～84年奨学生関係

(2-1)第266地区奨学生は次の9名である。

| | |
|------|----------------|
| 浅井源之 | 大阪阿倍野・アメリカ |
| 福田公子 | 大阪住之江・フランス |
| 原 洋一 | 箕面・アメリカ |
| 広里恭史 | 八尾・アメリカ |
| 小南俊也 | 八尾東・アメリカ |
| 鈴木繁夫 | 豊中-大阪国際空港・アメリカ |
| 玉田純子 | 豊中・ドイツ |
| 橋村逸子 | 大阪南・アメリカ |
| 井村 誠 | 高槻東・アメリカ |

(2-2)財団奨学生オリエンテーションを奨学生・顧問ロータリアン(1982年12月委嘱)

第266地区担当者が参加し、学友委員会と合同で3月15日大阪YMCA国際センターにおいて開催した。

3.財団奨学生 Mr. James A Wren(1959年生 自宅:Alabama U.S.A.)について

James君は1月29日大阪国際空港に到着し、関西外大で日本語の研修の後、比較文学日本文学について学習する。宿舎は同大学のセミナー・ハウスでスポンサーRCは枚方RC、カウンセラーは枚方RCメンバーの諏訪正美氏である。

予算 500,000 支出累計 130,220 残高 369,780

研究グループ交換委員会

| | | |
|-----|------|--------|
| 委員長 | 山中文和 | (大阪南) |
| 委員 | 堀内 顕 | (八尾東) |
| 〃 | 小林龍三 | (大阪) |
| 〃 | 小谷泰造 | (大阪北) |
| 〃 | 村上 実 | (池田) |
| 〃 | 世戸一夫 | (大阪難波) |
| 〃 | 田代 通 | (守口) |

1. 伊藤PDGはじめ地区委員の皆様と、264・266両地区内8ブロックの実行委員の皆様のお協力を得て、本年度の活動計画をすべて消化いたしました。昨年度昭和57年2月6日から3月16日まで、泉大津RCの中島ガバナー代理はじめ6名を983地区オーストラリア タスマニアへ派遣、先方の雄大な自然と暖かいホスピタリティーにあい、十二分に初期の目的を達し全員無事に帰ってまいりました。

今年度昭和57年10月3日から11月6日まで5週間、983地区ローンセストンRC、Mr.トレガスキスを団長として

| | |
|-----------------|-----|
| 弁護士 | 28才 |
| 石油化学研究者 | 33才 |
| マーケティング コンサルタント | 34才 |
| 博物館管理者 | 26才 |
| 精密機械技師 | 28才 |

の計6名が来日、当初の16日間を264地区で、後半の16日間を266地区で受け入れ、これまた十分に初期の目的をはたして帰りました。264・266地区とも、ホスト家庭の皆様方の御厚情と実行委員の熱意により、彼等にとって非常に印象深い研究活動となりました。特筆すべきことは、

- ・ 大島大阪市長が大阪市表敬の後、市長公邸へ正式に彼等を迎え、一夜晩餐会を開いていただきました。特に印象深い一夜だったと思います。
- ・ 守口RCでの受け入れ状態が読売新聞に大きく取り上げられ、広報活動に役立ちました。

2. 目下、かの地において報告書作成中にて、いずれこちらに送付されれば、一部分翻訳の上、配布いたします。

3. 次年度(1984~85年)計画として

(A) 264地区で目下進行しているオンタリオ州トロント周辺の707地区との交換に関し当地区として企業研修等、出来る限りの援助をする。

(B) 次年度行なわれる予定であるイギリス南部並びにチャンネルアイランドの111地区とのグループ交換に関して、最も高い効果を上げるため、当地区内の全ロータリアンに対し、インフォメーションに務める。又、111地区に対し、266地区の必要PRの資料を送る。

(C) 地区内全クラブ財団関係委員長合同会議において、GSEへの理解、協力を呼び掛ける。

予算 3,000,000 支出累計 3,213,873 残高 Δ213,873

財団学友委員会

委員長 田中穰二 (大阪西南)
委員 黒田巖之 (大阪淀川)
" 湯川泰秀 (大阪)

本年度は第264地区と合同で下記計画を実施した。

1. 財団学友名簿の作成

学友の個人原簿の整備につとめるとともに財団学友名簿(奨学生87名、GSE37名 計124名)を作成し、財団関係諸委員、学友ならびに各クラブに配布した。

2. 財団学友第1回オリエンテーションと学友懇談会の開催

標記の会合を財団奨学金委員会と共催で10月23日、YMCA国際社会福祉センターで伊藤バスターガバナーをはじめ34名(学友22名、ロータリアン12名)参加の下に開催し、奨学生の留学およびロータリー理解をはかると共に懇談会では新旧学友とロータリアンの親交を深めた。

3. 財団週間等の学友卓話幹旋

8月16日開催のクラブロータリー財団委員長会議で財団週間等での学友卓話幹旋のアピールを行ない、これに基づいて要請のあった当地区24クラブに卓話者を紹介すると共に2組のIGFに学友を派遣した。

4. 財団奨学生第2回オリエンテーションの開催

3月5日財団奨学金委員会と共催で標記会合をYMCA国際社会奉仕センターで伊藤バスターガバナーをはじめ21名(奨学生7名、学友2名、顧問ロータリアン6名、財団諸委員6名)参加の下に開催した。今回は特に顧問ロータリアンの出席を要請して相互連絡につとめた。また、当日の欠席者にはオリエンテーションの要点を送付し理解の徹底を期した。

以上が現在までに行なった主な活動内容であるが、これからの計画のして、財団学友のバスター・サービスクラブの集会を役員と相談のうえ開催し、その助成につとめたい。

予算 250,000 支出累計 185,720 残高 64,280

拡大部門

担当パストガバナー 平井常次郎 (大阪南)

わが266地区が今ロータリー年度において新クラブの第一声をあげたのは昨年12月7日に誕生した八尾中ロータリークラブであった。八尾クラブをホストとし、八尾東クラブの協力のもとに新生の喜びを大きくしたわけで、これで八尾市内待望の3クラブの顔が立派に揃ったのである。創立総会は7日夜八尾商工会議所において盛大に開催され、35名の新会員が華々しくスタートを切った。そして、5月28日に大阪の太閤園で認証状の伝達式が行なわれ名実ともに意義あるスタートが切られる。

次いで生まれたのは大阪天満橋クラブが長期間にわたって周到な準備を進めてきた大手前クラブが3月18日午前11時半から大阪コクサイホテルで創立総会を開き、新会員33名は4月4日意義ある第1回例会を開いた。こうして有力な2クラブを新しくわれわれの同志に迎えたのであるが、今後の展望としても大阪クラブが大阪の中心地点に在る船場に新クラブの創立について検討しており、その他にも枚方、池田にも遅かれ早かれ新クラブが生まれることと期待される。さきに第266地区から分割した第264地区でも4月8日和歌山の県民文化会館で開いた地区年次大会において近く地区内にふたつの新クラブの出来ることを内示し、ロータリー奉仕活動の基盤がこうして順調に力強く伸びて行くことは慶祝の至りである。

(追記)

1983年規定審議会決定事項のうち、拡大部門関係は次の通り

制(S3-112)区域を共有する新クラブの承認条件を既存クラブの過半数とする件

R I 細則第1条第1節(b)項

拡大のために、区域共有クラブの全部でなくとも過半数の承認があればよいと緩和

制(S3-114)拡大の為の既存クラブの承認が拒否された場合、R I 理事会又は地区ガバナーが再考を求めることが出来る

R I 細則第1条第1節(b)項に追加

区域の割譲又は共有を含む新クラブの結成に対する提案が区域内のクラブにより拒否された場合、地区ガバナー又はR I 理事会は問題の再審議をクラブ会員に委ねることが出来る。その決定は定足数出席のもとに出席会員の3分の2の投票による。

制(S3-115)区域限界を共有する既存諸クラブのアディショナルクラブ結成承認手続きを修正する件

R I 細則第1条第1節(b)項に追加

承認を必要とするクラブ数が3つ以下の場合(2つ又は偶数で賛否のクラブ数が相半ばする場合は、(d)項に規定される出席会員の投票の過半数とは、当該全クラブの票を集計したものとする。

拡大カウンセラー

委員長 中西順一郎 (大阪西南)

委員 山口満雄 (箕面)

“ 村岡秀雄 (大阪東)

1. 活動報告または残りの予定

地区分割後の初年度に際し、「候補クラブより拡大委員を御推薦いただき、3名の地区拡大カウンセラー、地区ガバナー及び担当バストガバナーの強力な援助と指導を得て推進する」という昨年度立案された基本方針に沿って活動いたしました。注目の拡大委員会には、大阪RC、池田RC、豊中RC、大阪天満橋RC以上4クラブより強力な拡大委員を推薦戴き、地区拡大の組織が飛躍的に強化されたのであります。その上に、期首早々の7月14日、平井P.G、古藤地区幹事ご出席の拡大委員及びカウンセラー会議に於いて、早くも2クラブの拡大委員会発足のニュースがもたらされ、幸先のよいスタートを切ることができました。その一つは昨年来の有力候補クラブであった「大阪天満橋RC」で6月23日の臨時総会で拡大委員会の設置が承認され、7月10日には第1回の委員会が開催されました。もう一つは、予期しなかった「八尾RC」に於いて戸田ガバナー直々の働きかけで、7月14日拡大委員会が発足、新クラブの区域限界を八尾RCと八尾東RCの区域を共有することとし、既にR I本部の承認を取り付けた・・・という鮮やかなデビュー振りのご報告に接しました。こうして、本年度は早々2クラブの設立が確定、それに力を得て、かねてよりの懸案であった「池田」「枚方」「大阪」「高槻」「豊中3RC」に従来以上の期待を以て望み、残された3ヶ月、全力を尽くしたいと思います。その一環として次年度の展望も含め、4月中旬、再度平井P.G以下新・旧委員全員に御集まりをいただき、委員会を開催いたしました。新クラブの概要は下記の通りです。

(1)八尾中RC(八尾RC)事務局:八尾商工会議所会館内 Tel:0729-92-1110

例会日:毎週火曜日 18:30~ 例会場:八尾商工会議所

特別代表 藤本直氏 会長 沼井義一氏

(2)大阪大手前RC(大阪天満橋RC)事務局:松坂屋大阪店 Tel:06-943-1111

例会日:毎週金曜日 12:30~ 例会場:大阪コクサイホテル

特別代表 藤野重郎氏 会長 津田良雄氏

2. 次年度委員長へのメッセージ

来たる1983~84年度は、地区カウンセラーを3年ご担当いただいている山口さんが委員長であります。従いまして、この成功した組織を益々ご発展されることでしょうか。また、ガバナー、バストガバナーの直接援助も強力で、組織は全く完璧となります。この組織が拡大に極めて有効であることは、前期2クラブの誕生の事実と、後を追って、次の新クラブの名乗りが期待される見込みなどから見事立証されたといえましょう。ガバナー、バストガバナーの大所高所よりの働きかけと、地区拡大委員の強力援護のもと、次期拡大カウンセラー委員長のご活躍を期待いたします。

予算 150,000 支出累計 104,160 残高 45,840

収 支 報 告 書

地区委員会長 吉川 彦 雄
地区会計 古川 利 行

収 入 の 部

58年3月31日

| 科 目 | 予 算 額 | 入 金 額 | 差 計 |
|-----------|------------|-----------|------------|
| 前 期 繰 越 金 | 14,300,000 | 0 | 17,240,847 |
| R I 交 付 金 | 1,000,000 | 0 | 1,385,797 |
| 地 区 収 入 金 | 45,500,000 | 1,228,500 | 46,956,000 |
| 注 入 | 300,000 | 27,098 | 802,877 |
| 合 計 | 61,100,000 | 1,255,598 | 66,385,521 |

支 出 の 部

| 科 目 | 予 算 額 | 支 出 額 | 差 計 | 予 算 残 額 |
|-----------------------|------------|-----------|------------|------------|
| 委 員 会 活 動 費 | 13,220,000 | 1,194,004 | 10,077,469 | 3,142,531 |
| 地区指名委員会 | 120,000 | 0 | 4,635 | 115,365 |
| 急務ある業績賞委員会 | 30,000 | 0 | 0 | 30,000 |
| クラブ奉仕部門 | 120,000 | 0 | 49,120 | 70,880 |
| 広報委員会 | 200,000 | 0 | 201,371 | △ 1,371 |
| 規定情報委員会 | 80,000 | 0 | 86,400 | △ 6,400 |
| 雑誌委員会 | 120,000 | 0 | 7,325 | 112,675 |
| 職業奉仕部門 | 100,000 | 0 | 29,712 | 70,288 |
| 社会奉仕部門 | 100,000 | 48,540 | 66,145 | 33,855 |
| 環境資源委員会 | 100,000 | 47,140 | 56,175 | 43,825 |
| 青少年奉仕部門 | 1,800,000 | 4,050 | 999,899 | 800,101 |
| 青少年奉仕部門 | 2,500,000 | 0 | 1,811,975 | 688,025 |
| インターアクト委員会 | 3,000,000 | 602,810 | 2,402,920 | 597,080 |
| 国際奉仕部門 | 150,000 | 23,050 | 126,410 | 23,590 |
| 青少年交換委員会 | 150,000 | 175,290 | 132,455 | 17,545 |
| 米山奨学委員会 | 350,000 | 149,696 | 244,011 | 105,989 |
| 国際交流委員会 | 150,000 | 0 | 88,970 | 61,030 |
| トロント大会行委員会 | 100,000 | 4,005 | 61,700 | 38,300 |
| 財団増進委員会 | 150,000 | 4,320 | 74,273 | 75,727 |
| 財団奨学委員会 | 500,000 | 25,130 | 130,220 | 369,780 |
| 研究グループ交換委員会 | 3,000,000 | 456,803 | 3,213,873 | △ 213,873 |
| 財団学友委員会 | 250,000 | 3,750 | 185,720 | 64,280 |
| 拉大部門 | 150,000 | 0 | 104,160 | 45,840 |
| 委員会活動予備費 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 会 議 費 | 5,700,000 | 86,000 | 2,420,030 | 3,279,970 |
| 地区大会 | 300,000 | 0 | 300,600 | △ 600 |
| 地区協議会 | 300,000 | 0 | 0 | 300,000 |
| 地区委員会 | 1,800,000 | 0 | 898,120 | 901,880 |
| インターシティセネラルフォーラム | 120,000 | 0 | 3,360 | 116,640 |
| 地区大会交通会合費 | 120,000 | 5,580 | 15,610 | 104,390 |
| ガバナー打合せ会費 | 1,000,000 | 80,420 | 502,340 | 497,660 |
| R.I.会長代理記念品代 | 150,000 | 0 | 0 | 150,000 |
| 同上歓迎費 | 350,000 | 0 | 0 | 350,000 |
| 直前ガバナー記念品代 | 250,000 | 0 | 0 | 250,000 |
| G.N.国際会議参加補助 | 500,000 | 0 | 0 | 500,000 |
| 規定審議会派遣補助 | 500,000 | 0 | 500,000 | 0 |
| 予 備 費 | 310,000 | 0 | 200,000 | 110,000 |
| 日本国内国際ロータリー地区ガバナー連絡会議 | 700,000 | 0 | 722,400 | △ 22,400 |
| ロータリー文庫協力費200円×3,500 | 700,000 | 0 | 728,400 | △ 22,400 |
| 地区大会分担金 3,000円×3,500 | 10,500,000 | 0 | 10,836,000 | △ 336,000 |
| ガバナー月信印刷費 | 4,700,000 | 418,760 | 4,974,764 | △ 274,764 |
| 製版、印刷、送料、ホルダー | 4,500,000 | 418,760 | 4,974,764 | △ 474,764 |
| 予 備 費 | 200,000 | 0 | 0 | 200,000 |
| 事 務 所 経 費 | 14,300,000 | 715,700 | 10,290,129 | 4,009,871 |
| 事務所経費 | 14,000,000 | 715,700 | 10,270,129 | 3,729,871 |
| 予 備 費 | 300,000 | 0 | 20,000 | 280,000 |
| 予 備 費 | 1,950,000 | 0 | 0 | 1,950,000 |
| 合 計 | 51,770,000 | 2,414,464 | 40,043,192 | 11,726,808 |

残 高

※ 印は 264,266地区合同実額

| 収 支 差 引 残 高 | 9,330,000 | 26,342,329 | |
|-------------|-----------|------------|------------|
| 内 訳 | | | |
| 現 金 | | 480,798 | 24,320,161 |
| 普通預金 | | 839,363 | |
| 当座預金 | | 2,000,000 | |
| 定期預金 | | 1,000,000 | |

差額内訳
別紙
2,022,168

収 支 報 告 書

昭和 58 年 3 月 31 日

地区資金委員長 吉川 鹿 雄
地区 会 計 古 川 利 行
(単位円)

1 青少年交換ファンド

| 摘 要 | | 金 額 | 備 考 |
|---------|---------|------------|---|
| 収 入 | 前期繰越金 | 5,744,213 | |
| | 当期収入 | 7,200,000 | 12月2,070,000 1月3,690,000- 2月1,440,000- |
| | 雑収入 | 34,556 | 預金利息 /8 5,983- 58/1 3,682- 58/2 24,891- |
| 合 計 | | 12,978,769 | |
| 支 出 | 前月迄支出累計 | 4,375,590 | |
| | 当月支出 | 392,907 | 活動費 250,290- 交換学生諸費 57,617- 文集印刷費 85,000- |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | | 4,768,497 | |
| 差引当月末残高 | | 8,210,272 | (普通預金)210,272(通知預金)8,000,000 |

2 地区奨学生特別支援基金

| 摘 要 | | 金 額 | 備 考 |
|---------|---------|-----------|--------------------------------|
| 収 入 | 前期繰越金 | 2,395,040 | |
| | 当期収入 | 0 | |
| | 雑収入 | 13,965 | 預金利息 57/8 2,572-, 58/2 11,393- |
| 合 計 | | 2,409,005 | |
| 支 出 | 前月迄支出累計 | 281,800 | |
| | 当月支出 | | |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | | 281,800 | |
| 差引当月末残高 | | 2,127,205 | (普通預金)127,205-(通知預金)2,000,000- |

3 世界社会奉任委員会基金

| 摘 要 | | 金 額 | 備 考 |
|---------|---------|-----------|--|
| 収 入 | 前期繰越金 | 0 | |
| | 当期収入 | 8,111,812 | 10月1,029,000 11月5,149,812 12月1,933,000 |
| | 雑収入 | 32,517 | 預金利息 58/2 10,424- 22,093- |
| 合 計 | | 8,144,329 | |
| 支 出 | 前月迄支出累計 | 4,201,800 | |
| | 当月支出 | 0 | |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | | 4,201,800 | |
| 差引当月末残高 | | 3,942,529 | (普通預金)442,529(通知預金)3,500,000 |

4 米山記念奨学会基金

| 摘 要 | | 金 額 | 備 考 |
|---------|---------|---------|----------|
| 収 入 | 前期繰越金 | 148,693 | |
| | 当期収入 | 0 | |
| | 雑収入 | 160 | 預金利息 |
| 合 計 | | 148,853 | |
| 支 出 | 前月迄支出累計 | 148,853 | |
| | 当月支出 | | |
| | | | |
| | | | |
| 合 計 | | 148,853 | |
| 差引当月末残高 | | 0 | (普通預金) 0 |

